

令和7年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月7/16日実施)	総合評価（3月31日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ・中高一貫教育の特色を活かした教育課程を策定し、知的好奇心を引き出し、高い学力と志を身に付けさせる。 ・探究学習を中心にカリキュラム・マネジメントを展開し、「自ら考え・調べる」姿勢を育成する。 ・主体的・対話的で深い学びを重点研究し、言語活動の充実を図りながら科学的根拠に基づく論理的思考力、及びSTEAM教育等を通して表現力を育成する。 ・グローバル社会に求められる英語運用能力向上を目指すとともに、様々な価値観を持つ人々との相互理解を推進する。 	<p>①思考力・判断力・表現力を高める振り返りシートと評価方法や評価の手立てを整理する。また、各教科で中高一貫教育の6年間の教育課程を整理する。</p> <p>②英語運用能力の更なる向上を目指す。</p> <p>③学校外との交流を推進する。</p>	<p>①「思考力・判断力・表現力の育成」および6年間を見通した「指導と評価の一体化」を共通テーマとして研究を実践する。</p> <p>②英検受験、合格率とGTECスコア、および共通テスト平均点を過去のデータと検証し、現状分析と目標を再設定する。</p> <p>③特別土曜講座において、他校生の参加を呼びかけたり、生徒からの提案や意見も吸い上げたりする。</p>	<p>①研究成果と教科への還元はどうか。単元に係る振り返りを実施し、生徒に6年間の展望を持った学習姿勢を持たせることができたか。</p> <p>②データの推移と分析結果はどうか。</p> <p>③特別土曜講座への参加者数や参加校数に変化は見られたか。また、生徒からの提案がどのくらいあったか。</p>	<p>①「育成したい生徒像」をルーブリックに言語化する授業研究（プチ探究）を実施した。職員もこの手法に慣れ、対話が活発化している。また、前期課程の「指導と評価の計画」を見直し、各教科で6年間の展望を持った学習を再確認した。</p> <p>②卒業時の英検準2級相当取得率は100%であり、6年次で英検準1級取得者の割合が15%を超えた。</p> <p>③延べ10回で約300名（うち他校生60名超）が参加した。生徒要望で続く「チームを動かす対話力」は毎回内容を更新している。また、好評につき継続が決まった「Global Competency Camp@APU」説明会では、参加生徒が越境体験の意義を語った。</p>	<p>① 学年ごとの育成したい生徒像と教科の中で育成したい能力をどのようにつなげていくのが課題である。更なる向上のためにこの方向性を継続する必要がある。</p> <p>② 生徒に英語各資格・検定試験を一層推奨するとともに、保護者への周知方法の徹底を図る。</p> <p>③「School Cross」教育効果の高さは実感しているものの、他校への参加呼びかけや他校生の参加のハードルの高さが課題である。さらに生徒を連れ出し越境させる取り組みをすすめたい。</p>	<p>○中等教育学校の強みを活かした体系的な教育課程の編成や、探究活動を軸とした授業改善の取り組みが高く評価できる。特に英語力の向上や、特別講座・越境学習等を通じた生徒の主体性育成の成果は大きい。一方で、ルーブリック評価については目的化を避け、「育成したい生徒像」や各教科の目標と結びつけた適切な運用が求められる。今後は、第一線で活躍する社会人を講師に招くなど、生徒が将来像を具体的に意識できる機会の拡充を期待したい。また、教員個々の持ち味や成長を評価する視点も重要である。</p>	<p>① ルーブリックを活用した授業研究の定着により、教員間の対話が活発化し、6年間を見通した指導の再確認が図られた。</p> <p>② 英語資格取得や外部講座の充実により、生徒の主体性や英語力の向上が見られた。一方で、「育成したい生徒像」と教科指導との接続が十分とは言えず、体系的整理が課題である。</p>	<p>① 各教科において育成する資質・能力を明確化し、ルーブリックと関連付けた指導の一層の充実を図る。</p> <p>② 英語資格試験の受験促進と保護者への周知を徹底する。</p> <p>③ 他校連携や越境学習の機会を拡充し、外部との交流を強化する。</p>
2	(幼児・児童・)生徒指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> ・自主自律を推奨し、目標達成を諦めない精神力と規範意識、思いやりをもって下級生を指導するリーダー意識を醸成する。 ・6年間を安全かつ安心して過ごせるよう、安全教育を通じて支援・指導を行う。 	<p>①「挨拶をする」「時間を守る」「整理整頓する」の3つを、生徒に自主的に取り組ませる。</p> <p>②事件や事故、いじめ等を未然に防ぐ。カウンセリングを積極的に活用する。</p>	<p>①「挨拶」「時間を守る」「整理整頓」の3つの柱において、生徒による自主的取組を促す。</p> <p>②新たに月間指導目標を設定し、全教職員で指導する。カウンセリングを公欠扱いとする。</p>	<p>①生徒一人ひとりが、3つの柱に対して自主的に取り組めたか。</p> <p>②生徒の様子と生徒の評価はどうか。カウンセリングを受けた生徒の経過はどうか。</p>	<p>① 行事を通して、生徒が3つの柱を意識している姿を見ることができた場面もあったが、日常生活の様子を見る限り、まだまだ課題も多いように感じる。</p> <p>② 月間指導目標を設定し、毎月全職員と共有して指導にあたった。カウンセリングを公欠扱いとした。</p>	<p>①部活動や行事の土台となる「3つの柱」の日常的な構築を重視する。教職員の働きかけに加え、生徒会や委員会など、生徒主体で3つの柱を呼びかけ合えるような仕組みづくりを探っていききたい。</p> <p>②盗難や交通マナーの指導件数は改善されず、生徒への目標浸透や意識向上も不十分だった。引き続き、面談や集会等のあらゆる場面で教職員が連携して指導にあたる。一方、カウンセリングを公欠扱いにした結果、サポートドックからの継続利用者が微増した。</p>	<p>○「挨拶・時間・整理整頓」といった基本的生活習慣の定着に向け、全教職員が足並みを揃えて指導にあたっている姿勢を評価する。また、カウンセリングを公欠扱いとするなど、生徒に寄り添った支援体制の強化も素晴らしい。課題としては、近隣からの交通マナー等に関する苦情への対応が挙げられる。引き続き学校全体で一貫した指導を継続し、生徒自身の規範意識を高める根気強い啓発が必要である。また、今後の生徒支援においては、すぐに答えが出ない事態に耐えうる力（ネガティブ・ケイパビリティ）を育む視点も取り入れていくことが望ましい。</p>	<p>① 「挨拶・時間・整理整頓」の3つの柱について、行事等においては意識した行動が見られるなど一定の成果が認められた。また、月間指導目標の設定やカウンセリングの公欠扱いにより、全教職員による指導の共有化と支援体制の充実が図られた。</p> <p>② 日常生活における基本的生活習慣の定着は十分とは言えず、交通マナーや規範意識に関する課題も依然として見られる。</p>	<p>① 生徒会や委員会活動を活用し、生徒主体による「3つの柱」の定着に向けた取組を推進する。</p> <p>② 面談や集会等あらゆる機会を通じて、教職員が連携した継続的な指導を行い、規範意識の向上を図る。カウンセリング等の支援体制を引き続き充実させるとともに、関係機関との連携を強化し、多様な生徒支援に対応する。</p>

視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月7/16日実施)	総合評価(3月31日実施)		
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等	
3	進路指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> 第一志望を諦めない進路指導を徹底するとともに、5教科受験での国公立大を推奨し、60名以上の現役合格者を目指す。また、国公立大や難関大における現役合格率75%を目指した段階的・体系的な支援・指導を行う。 キャリアパスポートを活用しながら、高い志を維持させるため、実践・経験値を向上させ、自己変容のプロセスを重視したキャリアプランニングを指導する。 	<p>①第一志望を諦めない進路指導を推進する。</p> <p>②主体的取組としてのコンテスト参加を引き続き促す。</p>	<p>①進路実績の分析と指導体制を検証する。</p> <p>②検定やコンテスト参加数調査を継続して行う。</p>	<p>①第一志望の進路実現を達成できたか。</p> <p>②参加者数ほどのように推移したか？</p>	<p>① 進路に関するアンケートを実施し、生徒自身による進路実現の達成度を確認するとともに、6年次の担任にも指導体制について意見を伺う。</p> <p>② sss 振返りを3月に実施し、そのなかで検定やコンテスト参加数の調査を継続して行い、その結果から推移を調査する。</p>	<p>③ 実際に生徒を支援していく学年団への支援がグループの課題の一つと言える。実力テストの活用方法やその後の支援、進路決定までの面談体制など、引き続き検討していく。</p> <p>③ 探究学習を中心とした検定やコンテストが増加傾向にある。企業独自のものや教員の引率を伴うものなど形態が多様化しており、生徒へ推奨する際の一定の基準づくりが必要である。</p>	<p>○生徒の進路意識を高める多様な取り組みや、探究学習を起点とした外部コンテスト等への積極的な参加を評価する。一方で、急増する検定やコンテストについては、教員の負担や生徒への推奨基準を学校として整理していくという方向性に賛同する。また、生徒を直接指導する学年団への支援体制の構築や、実力テストの効果的な活用、進路決定に向けた面談体制の充実に引き続き取り組まれない。今後は、各分野の第一線で活躍する社会人を講師として招くなど、生徒が自身の将来像や社会人としてのキャリアをより具体的に意識できるような機会のさらなる拡充を期待する。</p>	<p>① 進路アンケートの実施等により、生徒自身の進路実現に向けた意識の把握と指導体制の検証が図られた。一方で、学年団への支援体制や実力テストの活用方法、進路決定に至るまでの面談体制の充実が課題である。</p> <p>② 探究学習を基盤とした検定・コンテストへの参加が増加し、生徒の主体的な取組や進路意識の向上が見られた。一方で、外部検定やコンテストの多様化に伴い、学校としての推奨基準の整理が課題である。</p>	<p>① 学年団への支援体制を強化し、組織的な進路指導の充実を図る。実力テストの分析と活用方法を見直し、指導に効果的に反映させるとともに、面談体制の充実を図る。</p> <p>② 検定・コンテストの推奨基準を整理し、生徒への適切な情報提供と指導の質の向上を図る。探究活動との関連を明確にし、生徒の主体的な進路選択につながる取組を継続・発展させる。</p>
4	地域等との協働	<ul style="list-style-type: none"> 地域交流から社会貢献意識を醸成する。 神奈川県を代表する中高一貫校としての魅力を発信し、6年の学びの意欲を引き出す広報、開かれた学校づくりを推進する。 	<p>①校外活動を促すとともに、効果的な防災訓練を実施する。</p> <p>②学校のミッションを踏まえながら、受検者の視点を取り入れた学校案内を作成する。</p>	<p>①南区役所地域振興課と連携した防災訓練を計画、実施する。</p> <p>②生徒のアイデアを活かした学校案内を作成し、説明会を企画する。</p>	<p>①生徒の社会貢献意識と防災意識は向上したか。</p> <p>③ どのようなアイデアを活かすことができたか。</p>	<p>① 地域貢献活動と避難訓練はともに予定通りに実施され、社会貢献意識が向上したと答えた生徒は8割後半、防災意識が向上したと答えた生徒は9割以上だった。</p> <p>②学校説明会には、2,389名の参加者があり、志願者数は752名(4.70倍)であった。</p>	<p>① 地域貢献活動はアンケートを基に内容を見直す。また避難訓練では、生徒の防災意識向上に加え、地域住民が避難してきた際の学校側の対応策を検討する必要がある。</p> <p>② 学校説明会における参加者に本校の求める生徒像を伝え、入化学後の不一致を減らす。</p>	<p>○地域行政と連携した防災訓練や地域貢献活動を通じ、生徒の社会貢献意識と防災意識が高まっている点は評価できる。また、生徒のアイデアを生かした学校案内づくりにより説明会参加者・志願者が増加し、広報力も向上した。今後は、近隣自治会等との交流機会を設けるなど、学校側から地域社会へ積極的に歩み寄り、災害時の地域住民受入れ体制を含めた協働のさらなる深化を期待する。</p>	<p>① 地域貢献活動や防災訓練を計画的に実施し、生徒の社会貢献意識および防災意識の向上が見られた。一方で、地域住民の受入れを含めた実践的な防災体制の整備や、地域との連携の更なる深化が課題である。</p> <p>② 学校説明会の実施により、多くの参加者を得て広報活動の充実が図られた。</p>	<p>① 地域行政や自治会等との連携を強化し、実践的な防災体制の構築を図る。地域と協働した取組を継続・発展させ、生徒の社会貢献意識の更なる向上を図る。</p> <p>② 本校の求める生徒像の更なる発信と、入学後のミスマッチ防止に向けた取組を行う。</p>
5	学校管理 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> 業務を組織的に可視化させ、効率向上から働き方改革を推進するとともに、OJTを意識しながら職員相互の能力向上を図る。 地域から信頼されるため、職員一人ひとりが県職員としての自覚を持ち、不祥事防止に全力で取り組む。 	<p>①帰宅しやすい環境づくりの継続とスクラップ提案等により、業務削減に取り組む。</p> <p>②同僚性の醸成に継続的に取り組み、不祥事防止の意識を高める。</p>	<p>①試験前に会議を設定しないととも、採点システムの運用および「スクラップ提案書」を継続して実施する。</p> <p>②教員による不祥事防止研修を継続し、特に成績処理に関する事故防止に努める。コミュニケーションの取りやすい職場づくりを重点目標とする。</p>	<p>①時間外勤務時間や年休取得数がどのように変化したか。</p> <p>②研修会は実施できたか。また職員同士のコミュニケーションが増えたか。</p>	<p>① 「スクラップ提案」による更衣室の空調整備や整理整頓で、職場環境が改善された。また、業務サポーターへの業務委託を進めて負担軽減を図り、年休取得数も昨年より増加傾向にある。</p> <p>② 不祥事防止の合言葉である「風通しの良い職場創り」「同僚性の醸成」のもと、4月から対話中心の研修を多数実施した。併せて、成績処理の事故を防ぐため、毎回の試験期間には朝の打合せ等での確認を徹底した。</p>	<p>① 残業については、メンバーが定着している状況だが、業務量に偏りがあるというのが理由ではないと思われる。今後も帰宅しやすい環境づくりを継続したい。また、土日の部活動に係る業務分担が課題となる。</p> <p>② 4月当初の研修会はとく新たな職場のメンバーとなる着任者に有効であると考え。一方で新年度の準備や講師の確保、春休みに大会を実施する部活動などがありその調整が難しい。</p>	<p>○働き方改革や業務軽減(スクラップ提案の推進等)を通じた環境改善の成果が出ている点を評価する。保護者への情報発信(英語資格試験の周知等)をさらに徹底し、家庭との連携を深めることが求められる。「風通しの良い職場創り」を通じた同僚性の醸成により、引き続き不祥事防止や成績処理のミス防止に学校全体で取り組まれない。</p>	<p>① 「スクラップ提案」や業務委託の活用により、職場環境の改善や業務負担の軽減が図られ、年休取得数の増加など一定の成果が見られた。一方で、業務量の偏りや部活動に係る休日業務への対応が課題として残っている。</p> <p>② 対話を重視した研修の実施により、「風通しの良い職場づくり」や同僚性の醸成が進み、不祥事防止や成績処理に関する意識の向上が図られた。一方で、年度当初の研修実施にあたっては、準備や日程調整に課題が見られる。</p>	<p>① 業務の見直しと分担の適正化を進め、業務の平準化を図る。部活動に係る業務体制の改善を検討し、働き方改革を一層推進する。</p> <p>② 計画的な研修実施に向けて日程や内容の精査を行い、効果的な研修体制を構築する。引き続き対話を重視した取組を推進し、職員間のコミュニケーションの活性化と不祥事防止の徹底を図る。</p>

